

米国は中国に「対抗してくれるのか」

フィリピンのロドリゴ・ドゥテルテ大統領が閣僚らを引き連れて10月30日に来日、安倍晋三首相との首脳会談、歓迎晩餐(ばんさん)会に臨んだ。安倍自民党総裁の外交特別補佐である河井克行衆院議員の「写真」は「1年間でドゥテルテ氏と7回会った」という親密な仲である。



「来日直後の大統領と、帝国ホテルで40分間、会談した。同行の閣僚たちも『カワイさん当選おめでとう』と、衆院選の結果に握手攻めだった」河井氏は6月、安倍首相と協議して、フィリピン北部のスービック港に寄港した海上自衛隊のヘリコプター搭載型護衛艦「いずも」に、ドゥテ

ルテ氏を案内した。この時、河井氏は首相の親書を持参して、大統領とじっくり話す機会があったという。歴代大統領が財閥で上流階級だったのと対照的に、ドゥテルテ氏は検事出身、ダバオ市長30年という庶民派。「反米であり親日である」という。まず親日について。

鈴木棟の風雲永田町

5715

「ダバオはマニラ麻の発祥地で、日本人の入植者が多く、大統領は幼いときから日本人と親しんだ。昨年10月、安倍首相との初会談で、大統領は米国への不満をぶちまけた。首相はこれをじっくり聞き、『国益のためには耐えなければならぬ』と説いた。

「庶民レベルでは、米国の植民地時代の行動に反感が多い。大統領はこれを代弁している。昨年大統領選の最中、駐比米大使がテレビでドゥテルテ氏を攻撃した」さらに、アキノ

前政権が、南シナ海での中国の岩礁埋め立て問題で、オランダ・ハーグの仲裁裁判所に提訴して勝利した。中国は猛烈に巻き返した。ドゥテル

テ氏がこう本音をもらしたという。「判決通り、中国に『岩礁から出てくれ』と言っても、中国はウソと聞かない。フィリピンの貧しい軍事力を行使しても、当然、中国は反撃してくる。そのとき、米国はフィリピンのために、中国に立ち向かってくれないのではないか」この判断もあってドゥテルテ氏は中国との交渉で、経済援助で手を打ったかもしれない。河井氏が言った。「これはまさに、沖縄県・尖閣諸島を含め、日本の問題でもある。安倍首相が日夜、考えていることでもある」

5日にドナルド・トランプ米大統領が来る、微妙なタイミングである。(政治評論家)

河井克行氏が語る、比大統領の本音